

活況の社債市場、存在感放つCB

米

ドルをはじめ世界の金利が高止まりする中、債券の発行市場は好調が続いている。経済協力開発機構（OECD）の統計によると、2024年の世界の社債発行額は直近のピークだった2020年を超え、およそ6兆米ドルの規模に達している（図表1）。ベースの金利は高い水準にあるものの、企業の信用スプレッドが縮小したことや、先行き不透明な環境下において、インカムを求める投資家の動き、新型コロナウイルス感染症の流行を経て筋肉質になった企業の財務体質など、いくつかの要因が重なった結果だが、2025年も社債市場の活況は続いている模様だ。

とはいえ、企業側から見ると現状の米ドル金利は「借りやすい」水準とは言い難いだろう。このような中で発行が増えてきているのが転換社債型新株予約権付社債（CB）

だ。CBは利率を抑えて発行できる代わりに、あらかじめ決められた価格（転換価格）で株式に転換する権利が付されている債券。企業は低い金利で資金調達が可能で、発行時に株式の希薄化で既存の株主に迷惑をかけることもない。一方で投資家から見た場合は、発行企業が継続していれば満期時に元本が戻ってくるため、リスクを限定した株式投資として考えることができる債券になっている（図表2）。

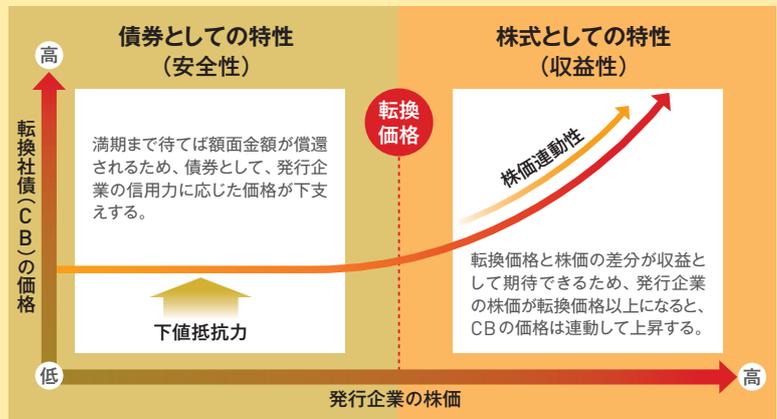
このような魅力を持つCBだが、適正価格を見極めるためには、発行企業の信用リスクと株価の両面からの評価が必要となる。また取引も相対取引が中心で、一般の投資家からはやや遠い商品と言えるかもしれない。CBは、プロの選別眼が活用可能な投資信託を通じて分散投資するのに向いていると言えそうだ。

M

■ 図表1 世界の社債発行額の推移



■ 図表2 発行企業の株価とCB価格の関係



ニッセイ/シュローダー

好利回りCBファンド 2025-09(為替ヘッジなし・限定追加型) 追加型投信/内外/その他資産(転換社債)

日本を含む世界のCB(転換社債)に投資します。
債券的性質が強く、相対的に利回りが高いCBを組み入れ、
利回りに応じた収益を確保することを主眼に、ポートフォリオを構築します。

※当ファンドは2025年10月22日以降、購入のお申込みはできません。